【学校用】

※大学院、高等専門学校は、項目番号等を適宜読み替えてご対応いただきますようお願いします。

«休学中奨学金採用願»

選考ソフトの入力内容の確認に関する補足

「休学中奨学金採用願」の提出者について、推薦する前に必ず下記の点を確認してください。

なお、選考ソフトでの推薦については、奨学金事務担当者ページの令和３年度日本学生支援機構奨学金業務研修会の研修会資料Ⅱ「選考ソフトについて」及び JSAS の取扱いについて【第 4 章】奨学生選考ソフトによる選考・推薦(大学等）もご参照ください。

・研修会資料の掲載箇所

（奨学金事務担当者ページ）ホーム >> 大学・大学院・短大・高専・専修学校専門課程 >> 学校担当者向け研修会等 >> 学校担当者向け研修会 >> 令和３年度日本学生支援機構奨学金業務研修会

・JSAS の取扱いについての掲載箇所

（奨学金事務担当者ページ）ホーム >> 大学・大学院・短大・高専・専修学校専門課程 >> JSAS >> JSAS の取扱いについて

１．採用種別の確認について

休学中における奨学金の新規申込については、定期採用（1 次又は２次）として申込・推薦をお願いします。まずは正しい申込種別で申し込んでいるかを確認してください。

もし申込者が誤って「緊急・応急採用」等で申し込んだ場合、申込者に改めて「定期採用（1 次又は２次）」にて申し込みし直すようご指導ください（誤った緊急・応急採用のデータについては、選考ソフト上で削除してください）。

（R４在学：大学･短期大学･専修学校専門課程）

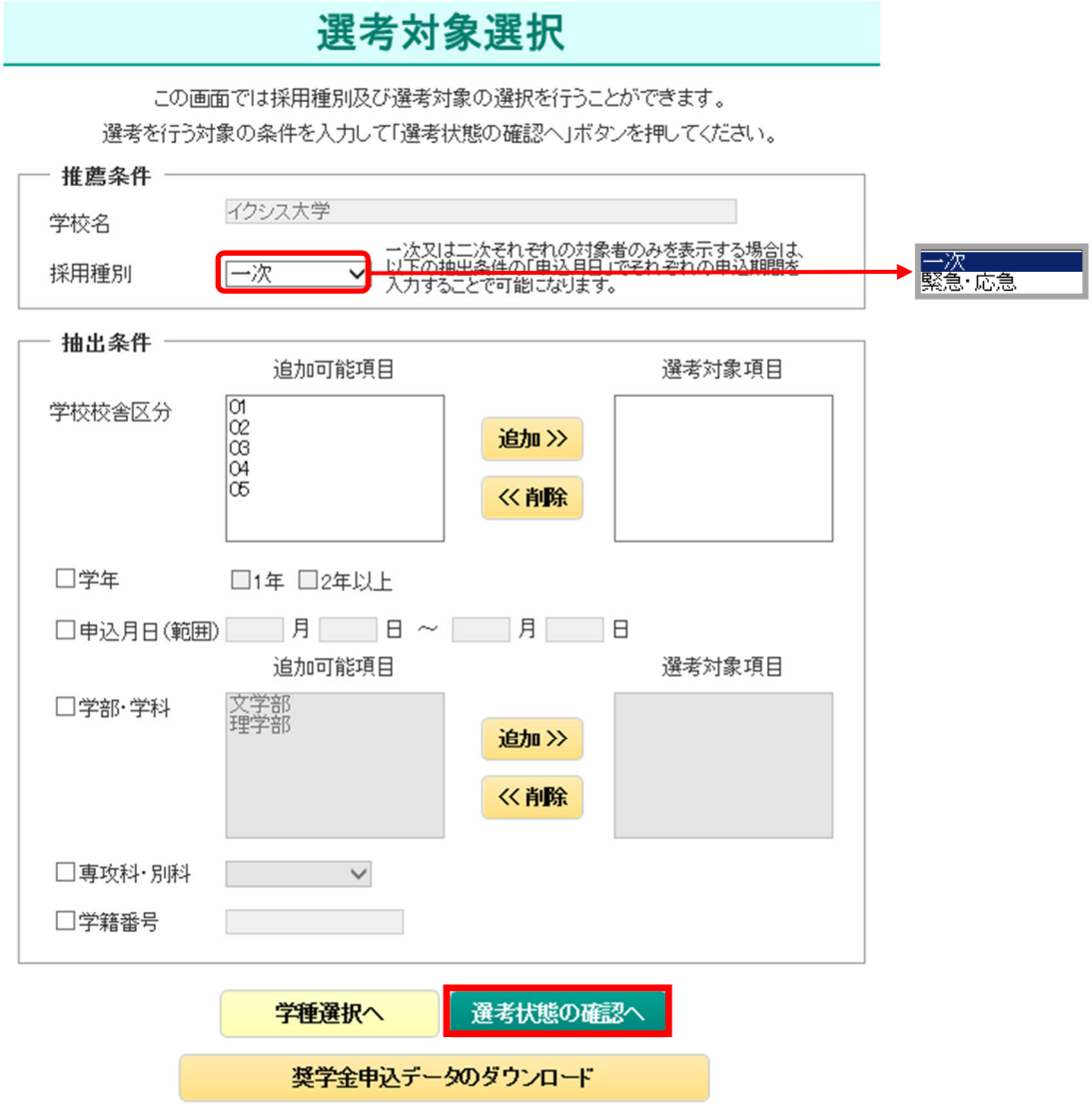

図１：「A-1．選考対象選択」画面

2.申込者の入力内容の確認について

休学中における奨学金の推薦にあたっては、特に以下の点が正しく入力されているか確認してください。誤った入力がなされている場合は選考ソフト上で修正してください。

①　申込区分（下記図２①参照）

第二種奨学金が選択されていることを確認してください。

（R４在学：大学･短期大学･専修学校専門課程）

② 第二種貸与始期等（下記図２②～④参照）

休学期間における「活動開始年月」が第二種貸与始期となります。活動開始年月は、「休学中奨学金採用願」にて確認してください。ただし、貸与始期は「2022 年４月～2022 年 9 月」の範囲内で入力されていることを確認してください。また、学年は、実質学年を入力し、卒業予定年月は、当該休学期間に入る前の卒業予定年月を入力してください。

※ 活動の開始が、2022 年３月以前の場合は、貸与始期は、「2022 年４月」と入力してください。

※ 活動開始年月が 2022 年 10 月以降の場合は、申し込むことができません。

③ 生計維持者の収入等情報

定期採用時と同様に入力してください。

※貸与奨学金 奨学事務の手引 第 3-2-127～133 参照。

④ 現奨学生番号･前奨学生番号（下記図 3⑤参照）

奨学生番号が正しく入力されていることを確認してください。誤りがある場合は修正してください。

⑤ 被災状況（下記図 3⑥参照）

「休学中（学びの複線化）」が選択されていることを確認してください。その他の選択肢となっているあるいは未選択の場合は、必ず**「休学中（学びの複線化）」**に修正してください。

⑥ 家庭事情（下記図 3⑦参照）

「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、休学中にボランティアに参加するため」等と入力していることをご確認ください。

図２：「B－2. 申込データの確認」 個人別データ画面 -基本情報-（抜粋）

（R４在学：大学･短期大学･専修学校専門課程）

図３：「B－2．申込データの確認」 個人別データ画面 -履歴･特別控除情報-

３.推薦処理にあたってのご担当者様の入力について

推薦するにあたり、以下の入力が必要になりますのでご注意ください。

① 貸与推薦所見の入力（下記図４①参照）

スカラネットの「家庭事情欄」及び「休学中奨学金採用願」を確認のうえ、学校において当該休学期間の活動内容が有意義であると認められる場合は、「貸与推薦所見」にその旨及び活動期間を入力のうえ、対象学生等を推薦してください。

なお、断続的に活動を繰り返している場合は、活動期間の詳細、及び活動停止期間を有意義な活動期間の一部として認められるか否かについても入力してください。

（貸与推薦所見の例）※全角入力

「新型コロナウイルスの影響により、２０２●年●月●日から休学し、学外において●●の●●活動に２０２●年●月から継続的に参加しており、その活動内容は教育的活動に資するものと認められる。」

（R４在学：大学･短期大学･専修学校専門課程）

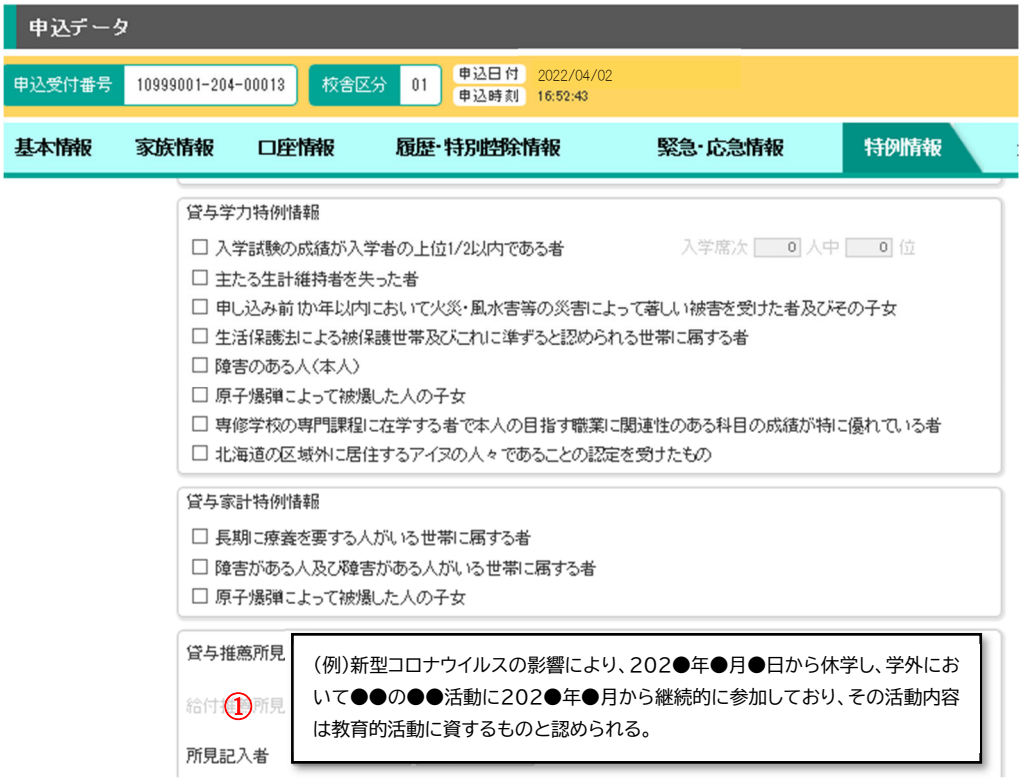

図４：「B－2．申込データの確認」 個人別データ画面 －特例情報-